

## 船舶事故調査報告書

平成23年3月24日  
 運輸安全委員会（海事専門部会）議決  
 委員 横山 鐵 男（部会長）  
 委員 山本 哲 也  
 委員 石川 敏 行

事故種類	転覆
発生日時	平成22年3月15日 05時00分ごろ
発生場所	北海道洞爺湖町 <sup>あぶた</sup> 虻田漁港沖 虻田港西防波堤灯台から真方位271° 2海里付近（概位 北緯42° 31.8′ 東経140° 43.6′）
事故調査の経過	平成22年3月23日、本事故の調査を担当する主管調査官（函館事務所）を指名した。 原因関係者から意見聴取を行った。
事実情報 船種船名、総トン数 船舶番号、船舶所有者等 L×B×D、船質 機関、出力、進水等	漁船 <sup>ひめ</sup> 姫丸、4.4トン HK3-94714（漁船登録番号）、個人所有 10.50m (Lr) × 2.98m × 1.22m、FRP ディーゼル機関、漁船法馬力数70、平成8年2月6日
乗組員等に関する情報	船長 男性 60歳 一級小型船舶操縦士・特殊小型船舶操縦士・特定 免許登録日 昭和63年11月18日 免許証交付日 平成20年1月30日 (平成25年11月17日まで有効)
死傷者等	なし
損傷	主機、航海計器及び漁ろう機器濡損等
事故の経過	<p>本船は、船長が1人で乗り組み、虻田漁港沖に設置したホタテ貝養殖施設において、‘海中から巻取機で引き揚げたホタテの成貝（約350～400kg）を各網袋に入れて甲板上に積む作業’（以下「ホタテ貝の揚収作業」という。）に従事していた。</p> <p>船長は、成貝の入った9個目の網袋をユニッククレーン（以下「クレーン」という。）で吊り上げ、ブームを仰角約45° に立てた状態で左舷側の船外に振り出し、甲板上に積んでいる網袋の上を通過させるためにブームを2段まで伸ばしたのち、同網袋を積む場所にクレーンの先端を合わせるために、更にブームを立てて調整することとし、‘クレーンの遠隔操縦装置’（以下「リモコン」という。）を操作した。</p> <p>船長は、その後、排水口から甲板上に浸水していること、及びブームがほぼ水平状態になっていることに気付き、ブームを立てる「起」ボタンを押したが、ブームを立てることができなかった。</p> <p>本船は、船体傾斜の増大に伴って甲板上に積んでいた網袋が左舷側に移動するとともに排水口からの浸水量が増したため、平成22年3月15日05時00分ごろ、左舷側に転覆した。</p> <p>船長は、転覆した本船の船底にはい上がって救助を待っていたところ、</p>

	<p>05時30分ごろ、付近で操業していた僚船が来援し、救助された。</p> <p>本船は、その後、虻田漁港にえい航され、上架して修理された。</p>	
気象・海象	<p>気象：天気 曇り、風 ほとんどなし、日出時刻 05時50分</p> <p>海象：海上 平穏、水温 約1℃</p>	
その他の事項	<p>本船は、船首部に操舵室を配し、船体中央部左舷側に巻取機、船尾部右舷側にクレーンを備えていた。</p> <p>クレーンのブームは3段伸縮式で、ブームを2段まで伸ばした状態での吊り上げ能力は、ブームの仰角が45°で400kgf、0°で350kgfであった。</p> <p>リモコンは、直方体の形状で、その上面には8個のスイッチボタンが縦一列に配置されていた。</p> <p>各スイッチボタンは、全て同じ形で、ブームを立てる「起」ボタンとブームを下げる「伏」ボタンは上下に並んでいた。</p> <p>船長は、リモコンを操作したとき、押すスイッチボタンが「起」ボタンであることを確認していなかった。</p> <p>甲板上は、作業灯により照らされており、作業を行う上で十分な明るさがあった。</p> <p>本船は、日頃から、甲板上に約10個の網袋を積んで帰港していた。</p>	
分析	<p>乗組員等の関与</p> <p>船体・機関等の関与</p> <p>気象・海象の関与</p> <p>判明した事項の解析</p>	<p>あり</p> <p>あり</p> <p>なし</p> <p>本船は、虻田漁港沖の養殖施設において、クレーンを使用してホタテ貝の揚収作業中、船長が、クレーンのブームを立てる際、リモコンのスイッチボタンを確認せずに操作し、成員の入った網袋を吊って船外に振り出していたクレーンのブームが下がったため、船体傾斜が増大し、甲板上の網袋等が舷側に移動するとともに排水口から浸水して左舷側に転覆したものと考えられる。</p> <p>リモコンのスイッチボタンが、全て同じ形で縦一列に配置されていたことは、船長が「起」ボタンと「伏」ボタンを押し間違えたことに関与した可能性があると考えられる。</p>
原因	<p>本事故は、夜間、本船が、虻田漁港沖の養殖施設において、ホタテ貝の揚収作業中、船長が、クレーンのブームを立てる際、リモコンのスイッチボタンを確認せずに操作し、成員の入った網袋を吊って舷外に振り出していたクレーンのブームが下がったため、船体傾斜が増大し、甲板上の網袋等が左舷側に移動するとともに排水口から浸水して転覆したことにより発生したものと考えられる。</p>	